

平成 30 年度下越地域医療構想調整会議新発田地域分科会 議事概要

1 日時

平成 30 年 11 月 1 日（木）午後 2 時から 3 時 50 分まで

2 会場

榊しばたショッピングセンター コモプラザ 第 1、第 2 研修室

3 会議の概要

(1) 議題（1）民間病院及び有床診療所の役割・方向性について

協議に先立ち、資料 1 により、今回の民間病院及び有床診療所の役割・方向性の検討に際しての背景及び視点について事務局から説明を行った。各医療機関の協議の内容については以下のとおり。

〔駅前医院〕

高齢のため 10 年くらい前から手術の件数を減らしており、困難な症例については、新発田病院に対応してもらっているとの説明があった。

後継者の問題もあり、今後どうするかは分からないが、外科的な面での地域医療への貢献という点では縮小することになるかと思うとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、駅前医院の役割・方向性について了承された。

〈主な質疑・意見〉

① 病床は「廃止」ではないか。

→微妙。当直を置いており、色々な患者が来るのは間違いない。私自身手術ができないということである。

② 基本的には、2025 年に向けて現状と同様急性期 4 床を維持していく形になるか。

→4 床ということであれば残してもよい。今のところすぐ廃止するという考えはない。

〔新潟手の外科研究所病院〕

新潟手の外科研究所病院から資料 2-1 により説明があった。また、全身麻酔が必要だったり、合併症があったりの場合には新発田病院を紹介しているとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、新潟手の外科研究所病院の役割・方向性について了承された。

〈主な質疑・意見〉

① 手の疾患であれば、快く受け入れていただいております、（新発田病院とし

て) 非常に助かっている。

- ② 2025年以降に向けての病床数であるが、急性期50床のままという理解でよろしいか。

→50床、このまま維持していきたいと思っている。

- ③ 整形外科としては日本有数の施設。圏域外からも外国からも患者が来ている。それは維持していただきたい。

[竹内病院]

竹内病院から資料2-2により説明があった。また、病床稼働率が97.9%とキャパシティの上限に達しており、将来的には、増床しないと患者の急性変化に対応しきれなくなる状況が考えられるとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、竹内病院の役割・方向性について了承された。

<主な質疑・意見>

- ① (新発田病院からのポストアキュートを受ける病院として) まったくの同感。同じことを考えている。私どもの病院も満杯で、今回何とか増床が認められた。竹内病院は急性期を持っているので、その支援にも回りたい。

[中条中央病院]

中条中央病院から資料2-3により説明があった。また、救急患者を断ることも多くあるが、できるだけ積極的にとっていく体制を整えていきたいとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、中条中央病院の役割・方向性について了承された。

<主な質疑・意見>

- ① (開業医として) 非常に助かっている。内科のレベルも高い。内科2人だけで大丈夫か危惧している。新発田、加治、金塚、坂町、村上からも多くの患者が来て、今後医師が足りなくなるのではないかと心配している。
- ② 計画の中で、「地域の医療機関との連携」という記載があるが、具体的にどういった医療機関とどのような連携を図っているのかももう少し詳細に説明願いたい。

→開業医や関連施設の急変時の患者は積極的に受けている。内科2人でオーバーワークというのは分かっているが、何とか頑張っている。また、CT、MRIに関しては、開業医に、自分の施設だと思って使ってくださいと言っており、読影して診断をつけてお返ししている。

[北越病院]

北越病院から資料2-4により説明があった。また、手術という部分では、施

設が整っておらず難しいと考えており、在宅に向けたリハビリの充実、そのためのリハビリ人材の確保に努めているとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、北越病院の役割・方向性について了承された。

<主な質疑・意見>

① 回復期 55 床ということだが、急性期はあるのか。

→急性期という急性期ではないが、病床機能としては 14 床持っている。ただし、長期型の方を受け入れるというのがほとんどであり、慢性期に近い形で 14 床は稼働している。

② 55 床というのは、苦勞して維持されているという認識である。果たして、この先もこれが可能なのか心配である。

→病院長も高齢で、現在、当直に関してはすべて非常勤で対応している。病院として常勤医師の確保は重要課題であり、引き続き医師確保を目指していきたい。

[豊浦病院]

豊浦病院から資料 2-5 により説明があった。また、ほぼ満床の状態、ベッドの確保に汲々としており、入院待ちの患者が増えている中、昨年度 3 月に 60 床の増床の許可が下りたが、少なくとも 2035 年までは高齢者が増えていくし、それから先も 80 歳以上の方が増えるというデータがあるので、まだまだ足りないという現状であるとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、豊浦病院の役割・方向性について了承された。

<主な質疑・意見>

① 介護医療院の計画があったと思うが、どのような状況か。

→介護医療院の新設ということで新発田市を交渉中（新発田市からは市の介護計画の変更を予定している旨説明あり。）。

② 病床を増やしたときに、医師、職員の確保が課題である。

[新潟聖籠病院]

新潟聖籠病院から資料 2-6 により説明があった。また、常勤医が少ないため時間外の対応が不十分であり、受診歴のある方や関連施設からの症例以外は他病院を紹介しているとの説明があった。

質疑応答、意見交換の後、新潟聖籠病院の役割・方向性について了承された。

<主な質疑・意見>

① 在宅医療等へのこれからの見込みについてお聞かせ願いたい。

→人員が整ったら訪問看護ステーションを、ということも考えているが具体的には決まっていない。

(2) 議題（2）その他

資料 3,4 により、平成 29 年度病床機能報告の結果（最終版）及び医療介護総合確保基金事業の執行状況について事務局から説明を行った。